



いにしえ 古の安曇野に触れる

8/13 穂高古墳群発掘見学会

市の史跡「穂高古墳群」の一つ、国営アルプスあづみの公園内にあるF9号墳の発掘見学会が8月13日に行われました。この日は、豊科郷土博物館友の会の皆さんなど約50人が参加。同古墳は、平成21年から毎年、夏の時期に國學院大学による発掘調査が行われており、参加者は、同大学の研究員から石室の様子、出土した刀や土器などの説明を受けました。参加者の宮原清和さん（穂高有明）は「古代の暮らしを今に伝える古墳群に壮大なロマンを感じます」と発掘作業を見守っていました。



県内初の卓球日本代表へ

8/12 卓球日本代表選手表敬訪問

東アジアの6つの国と地域の代表が対戦する東アジアホープス卓球大会(小学校6年生以下対象)で、日本代表として出場する手塚峻馬くん(豊科南小6年)が8月12日、大会を前に宮澤市長を表敬訪問しました。手塚くんは、5月末に東京都で行われた日本代表選考会で、代表10人の内の一人に選出されました。卓球競技で県内から日本代表が選出されたのは手塚くんが初めてです。手塚くんは「海外の選手を相手に一つでも多く勝ちたい」と大会での活躍を誓ってくれました。

光と音の競演 夏の夜空に1万2千発

8/14 安曇野花火

第8回安曇野花火（実行委員会主催）が8月14日、明科御宝田遊水池周辺の犀川河川敷で開催されました。本年は、約1万2千発の色とりどりの花火が打ち上げられ、集まった約2万2千人の観客から拍手と歓声が上がっていました。

プログラムでは、「温故知新」をテーマに花火を古い時代から振り返り、江戸時代の単色の花火から現代の色鮮やかな花火までを紹介。このほか、心温まるメッセージと共に結婚や家族の誕生日を祝う「お祝い花火」が打ち上げられました。フィナーレでは、音楽に合わせて打ち上げられる恒例の特大スターマインが安曇野の夜空一面を彩りました。



平和を願う“祈りの舞”で観客を魅了

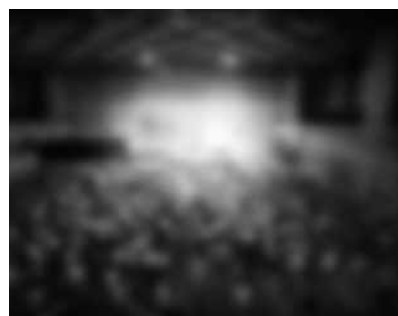
8/23 信州安曇野薪能^{たきぎ}

第24回信州安曇野薪能（同実行委員会主催）が8月23日、明科体育館の特設舞台で開催されました。

この薪能は、観世流能楽師であった故青木祥二郎さんが旧明科町の名誉町民に選ばれたことをきっかけに始まったものです。

今回は、青木祥二郎さんの長男で、市功労者表彰を受賞した青木道喜さんが創作した、新작能「恋の龍門淵」が上演されました。雨の精が初恋の人との再会を喜びながら争いのない世の中を願い舞う「祈りの舞」に、多くの観客が魅了されました。

このほかに、片山九郎右衛門さんによる舞囃子^{やまば}「山姥」や人間国宝の野村萬さんらによる狂言「佐渡狐」なども上演され、会場に詰め掛けた約800人の観客は、幽玄の世界を心行くまで楽しみました。また、開演前には市内の小・中学生の皆さんによる連吟・仕舞が披露されました。



安曇野から夢の舞台へ

7/29 スペインプロサッカーリーグ入団選手表敬訪問

サッカーのスペイン3部リーグ「UDログロニェス」に入団が決まった藤澤公宏^{まさひろ}さん（豊科）が7月29日、宮澤市長を表敬訪問しました。藤澤さんは7月まで愛知県の社会人チームに所属。小学生の頃からの夢だったプロ選手になるため、大学在学中から海外のプロチームの入団テストを受け、スカウトされました。ポジションがフォワードの藤澤さんは、体格や言葉、習慣の違いに戸惑いがあるとしながらも「長所であるスピードを生かした攻撃で、チームに貢献したい」と意気込みを話しました。8月下旬にチームに合流し、プロとしての第1歩を踏み出しました。



海の町、真鶴からようこそ

8/8・9 友好交流都市真鶴町青少年交流

友好交流都市・神奈川県真鶴町の小学生が、8月8日から1泊2日の日程で市内を訪れ、市内の小学生と交流しました。

本年は、53人（真鶴町26人、安曇野市27人）が参加。8日に堀金公民館で行われた「歓迎のつどい」では、名刺交換や記念撮影などが行われました。真鶴町から参加した竹内隆希^{りゅうき}くん（真鶴小4年）は「初めての参加で、わくわくしながら来ました」と話し、中嶋春香さん（豊科東小6年）は「国営アルプスあづみの公園での体験プログラムなどを通じて、友だちをたくさんつくりたいです」と笑顔で話してくれました。